

# 新型コロナウイルス感染症への対応について

2020年2月26日

日本聖公会中部教区

主教 ペテロ 渋澤一郎

常置委員会

## ✦主の平和

新型コロナウイルス感染症による発症が国内においても多数報告されています。感染症に関して、様々な情報が飛び交い、不安な思いをされている方もおられることと思います。感染予防、また他人に感染をうつさない努力が必要です。つきましては、新型コロナウイルス感染症により逝去された方々、発症された方々を覚え、祈りつつ、各教会・礼拝堂において以下のことを心に留めてくださるようお願い申し上げます。

## <新型コロナウイルス感染症について>

### どうやって感染するの？

新型コロナウイルスは ①飛沫感染 と ②接触感染 によりうつるといわれています。

#### ①飛沫感染とは？

感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つば など）と一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口や鼻から吸い込んで感染します。

※感染を注意すべき場面：屋内などで、お互いの距離が十分にとれない状況で一定時間いるとき

#### ②接触感染とは？

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付きます。他者がその物に触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染します。

※主な感染場所：電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなど

### どうやって予防するの？

#### ①手洗い、うがい

石けんやアルコール消毒液などによる手洗いを行うこと。

#### ②咳エチケット

咳などの症状がある場合は、咳やくしゃみを手でおさえると、接触感染を引き起こすことがあります。

そこで、感染症を他者に感染させないために、咳・くしゃみをするとき、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえてください（咳エチケット）。

#### ③濃厚接触をさける

必要な感染予防策なく手で触れること、または対面で会話することが可能な距離（目安として2メートル）で、接触した方などを濃厚接触者としています。ですので、屋内などで、お互いの距離が十分にとれない状況で一定時間いたときや、持病がある方などは、上記に加えて、公共交通機関や人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意が必要です。

これらを踏まえて、

<礼拝等で注意したいこと、お願いしたいこと>（裏面へ）

## ①マスクの着用

ウイルスの拡散を防止する目的で、礼拝中のマスク着用は構いません。司式者をはじめ、礼拝奉仕に携わる方も同様にマスクの着用は構いません。

## ②手指消毒

聖堂や会館などの入口に手指消毒用のアルコールの設置をお願いします。

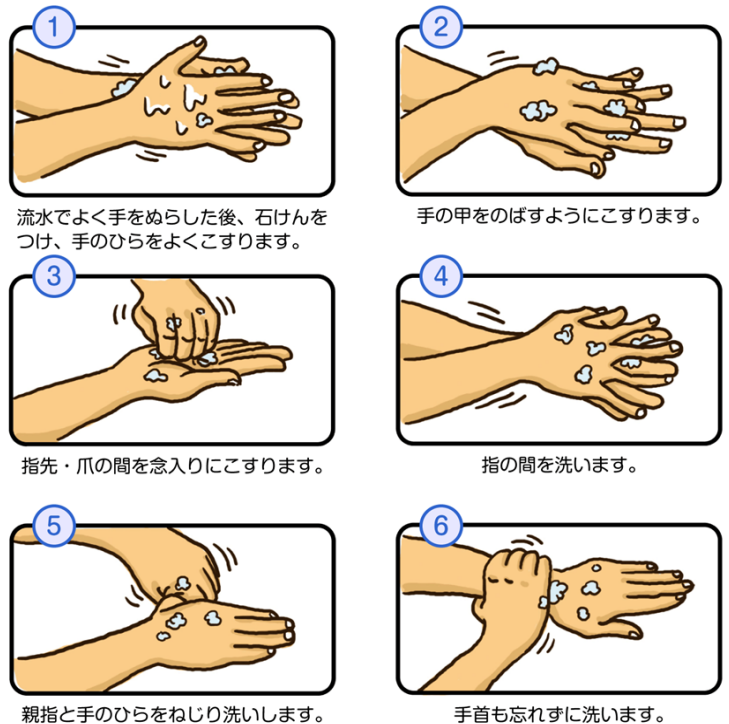
\* マスク、消毒用のアルコールが手に入りにくい状況となっていますが、石けんでの手洗いも有効です。

手洗いの前に  
・ 爪は短く切っておきましょう  
・ 時計や指輪は外しておきましょう

### 手の洗い方

1. 水で手をぬらし石けんをつける。
2. 指、腕を洗う。特に指の間、指先をよく洗う。(30秒程度)
3. 石けんをよく洗い流す。(20秒程度)
4. 清潔なタオルやタオルペーパー等で、よく拭き取って乾かす。

特に、ご聖体を扱う方は、聖餐式前に入念な手洗いの励行と、扱う直前にアルコールによる手指消毒をお願いします。



## ③以下の症状など、体調不良の方は礼拝への参列自粛をお願いします。

- ・ 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く方（解熱剤を飲み続けなければならない方も同様です）
- ・ 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある方

## ④教役者に体調不良や、発熱などが生じた場合には、聖餐式・分餐式の執行を自粛してください。

その際は、「み言葉の礼拝」等、信徒による礼拝が守られるようご考慮ください。

## ⑤「平和の挨拶」は、握手、抱擁等は避け、会釈に留めるなどご考慮ください。

## ⑥陪餐は、緊急避難の措置として、当面一種（パンのみ）の陪餐を原則とします。

分餐は通常と同様にチャリスを手に分餐語を唱え、拝領者はチャリスに軽く触れる、十字を切るなどして、飲むという行為のみを行わないようにしてください。なお、病気等で固形物がとれない方などへの対応は、状況に応じてご判断ください。

## ⑦礼拝後の愛餐会、集会等はしばらく自粛するか、最小限に留めてください。

## <もし信徒・教役者が感染してしまったら・・・>

必ず、渋澤一郎主教、土井宏純常置委員長、諸岡研史総主事のどなたかに速やかに報告をお願いします。今後も推移を見守りつつ、行政から自粛要請等があった場合はそれに従い、対応を定めて参ります。